

発行：岩手県精神保健福祉センター・岩手県自殺予防情報センター

このニュースレターは、県内に拡がりつつある自殺対策支援の輪を強化すべく、地域の自殺対策のノウハウに関する情報を発信していきます。

毎月15日号は、岩手県における地域自殺対策戦略介入プログラム「久慈モデル」について特集します。

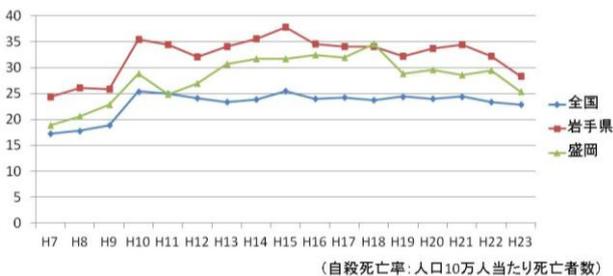
今回は、県央保健所管内の状況（自殺の現状、管内市町村の自殺対策の取組）についてレポートします。

県央保健所管内の状況（自殺の現状）

県央保健所管轄である盛岡保健医療圏（以下、盛岡地域）は、県庁所在地の盛岡市をはじめ、2市5町1村があり、県内人口の3分の1にあたる181,775世帯、487,005人（平成24年4月1日）が居住しています。また、面積は県内の4分の1を占める広大な地域となっております。

盛岡地域の自殺の状況については、自殺死亡率は全国平均より高く、県平均より低い傾向にあります。自殺死亡率の推移をみると、県全体としては平成15年をピークに以降緩やかな減少傾向にあり、盛岡地域は平成18年をピークに以降減少傾向にあります。尚、平成18年を除き、自殺死亡率が県平均を上回ったことはありません。

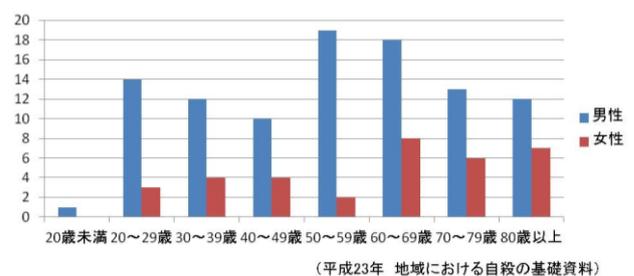
自殺死亡率の年次推移【総数：全国・県・盛岡保健医療圏】
（人口動態統計）



平成23年の自殺者数は122名（対前年比▲20名）で、県全体の3分の1を占めています。平成11年以来初めて130人を下回りました。平成23年における男女比は、男性73.7%（90人）、女性26.3%（32人）となっており、全国並びに県における男性の比率を上回っています。中高年男性の割合が最も高くなっています。

年代別では、県平均に比して若年層の割合が高くなっています。

平成23年 性別・年齢階級別自殺者数（自殺日・住居日ベース）



引用文献：

岩手県県央保健所：盛岡地域自殺対策アクションプラン、2012

県央保健所管内の久慈モデルの取組状況

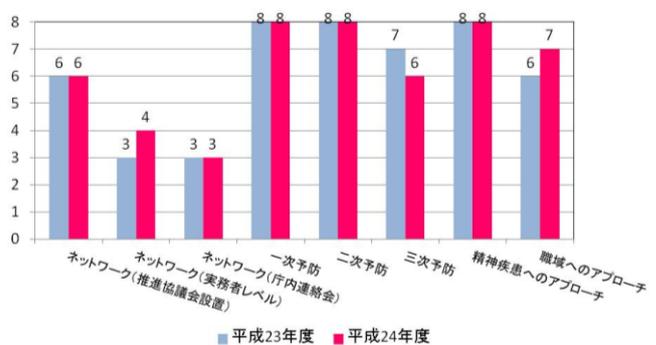
岩手県精神保健福祉センターでは、平成24年10月に県内保健所・市町村を対象に「久慈モデル実施状況調査」を行いました。調査結果によると、県央保健所管内の全8市町村で久慈モデルを実施しております。

「六つの骨子」別に実施状況を見ると、実施率が高かった骨子は「一次予防」「二次予防」「精神疾患へのアプローチ」で、いずれも全8か所で実施されていました。実施率が低いのは「ネットワークづくり」の中の「実務者レベルの連絡会」が4か所、同じく「市内連絡会」が3か所でした。

「実施している骨子数」でみると、6つの骨子全てを実施しているのは5か所、5つの骨子を実施しているのは2か所、4つを実施しているのは1か所と、8市町村いずれも4つ以上実施しています。

以上より、県央保健所管内の傾向として、久慈モデルの六つの骨子の取組数は相対的に多く、県内の保健医療圏の実施状況に比して実施率が高い傾向にあります。しかし「ネットワークづくり」については、管内市町村において取組が具体化されつつあるものの、今後一層の推進が期待されます。

久慈モデル骨子別にみた市町村の実施数（n=8）



盛岡地域自殺対策アクションプラン

平成24年12月に盛岡圏域自殺対策推進連絡会議において盛岡地域自殺対策アクションプランが策定されました。これは、盛岡地域の実情を踏まえ、特色ある取組を具体的かつ継続的に推進していくために策定されたものです。

来月号では、アクションプランで掲げる取組について取り上げていきます。

<フィールドレポート>市町村の取組状況

県央保健所管内の各市町村が、今年度、自殺対策として力を入れて取り組んでいることについて、現地取材をし、インタビューしてきましたので、レポートします。

葛巻町

今年度、町内の自殺者数が増加したことを受け、平成25年3月までに、副町長をリーダーに課長レベルの庁内プロジェクトチームを発足させ、庁内各部署横断的な取組に乗り出します。平成22年度、庁内職員を対象にゲートキーパー養成研修を実施し、まずは自殺予防の視点について知識を高め、庁内各課でできることについて、KJ法によるグループワークを行いました。

その後、税務担当職員が、税の徴収業務の為に家庭訪問したところ、慢性疾患のある抑うつ状態の住民を発見し、担当課へつないだというケースがありました。

今後、プロジェクトチームは、月に1回行われる庁議において、自殺対策としての取組状況等を報告することとなっています。【ネットワークづくり】



岩手町

平成23年度に、医療機関関係者との予防接種の会議を開催した際に、町の健康づくり事業について説明したところ、もう少し聞きたいとの意見があり、平成24年度には、町内の医療機関を対象にこのケア研修会を開催しました。町内の医療機関で働く看護師ら16人が参加し、自殺の現状とその対応について学びました。参加者からは、具体的な対応方法について知りたいとの意見も聞かれ、来年度はロールプレイ研修を取り入れるなど、今後も継続した取組を展開していく予定です。

また、理美容生活組合と協働し、来年2月に理美容店のスタッフを対象としてゲートキーパー研修を開催する予定です。理美容生活組合の支部は、岩手町、八幡平市、葛巻町の会員がいることから、隣接市町を巻き込んだ、広域レベルでの研修会になる見込みです。【一次予防：地域のキーパーソン向け普及啓発】



八幡平市

二次予防の取組として、内閣府の『地域活性化交付金(住民生活に光をそそぐ交付金)』を活用し、平成23年6月に自殺予防相談電話を設置し、自殺予防相談員を1名配置しました。これまで、電話相談があったケースへ家庭訪問するなどフォローを行っています。また、この相談電話の開設について、ティッシュペーパーに番号を掲載したものを自殺予防月間等で配布・設置するなどのPRを行ったほか、住民がよく集まるスーパーの前で、保健推進員等の協力を得て、のぼりを掲げ、Tシャツを着用し普及啓発を行いました。



今後も、住民組織を活用し、自殺予防相談電話等、自殺予防に関する普及啓発を継続していくこととしています。【一次予防+二次予防コラボレーション】



滝沢村

介護予防事業の要介護状態を防ぐ取組として平成12年度から「いきいきサロン」を立ち上げ、現在では村内27カ所の自治会においてサロンを開設し、孤立させない地域づくりを展開しています。村ではサロンにおいて健康相談や介護予防教室を行っていますが、介護予防の目的に加え、高齢者の自殺予防にも役立っています。村が自治会等へ委託し、地域住民が主体的に運営を行っています。

このサロンへは、傾聴ボランティア「ころサポーター TAKIZAWA」の会員も参加し、必要に応じて相談やその後のケアへつなげるなどの連携を行っています。また、その「サロン」を通じた顔のつながりが、地域における見守り活動としても発展しています。【一次予防：住民参加型の地域づくり】



次回予告

今回は、市町村に直接出向いて担当者からお話を伺いました。地域それぞれの精神保健活動の現状や問題点など、踏み込んだ話を聞くことができました。

次号は、平成25年1月15日発行です。引き続き盛岡地域自殺対策アクションプランについて、および県央保健所管内の市町村の取組について、レポートします。